

恵泉女学園 大学報

Keisen University
2006.11

11/4 (sat)・5 (sun) TAMA FES 2006!!!
Diamond 一輝きは無限大ー



① 学部・大学院ニュース

② 恵泉女学園生

③ 地域社会との連携

文化学科の魅力

④ 行事報告

学長海外提携大学訪問

オープンキャンパス

インターンシップ

多目的アワー

⑤ 恵泉トピックス

お買い得度No.1女子大

ノーベル平和賞

多摩フェスティバル

日本語スピーチコンテスト

コスモスとツマグロヒョウモン

平和の創り手を、体験学習と大学院を通じて育てる人間社会学部

「戦争の時代」であった20世紀に対して、21世紀は「平和の時代」になるだろうと、私たちの多くは期待していました。ところがこの期待は、2001年9月11日の同時多発テロ事件以来、大きく裏切られています。対テロ戦争という名目で、アメリカはアフガニスタンとイラクに侵攻しましたが、血なまぐさい事態が今も続いています。テロの脅威は、世界各地に広がりました。アフリカ・スーダンのダルフル地方やスリランカでも、人々が暴力に怯えながら不安な日々を送っています。一方経済のグローバル化によって、経済的に恵まれた人と貧しい人々の格差は一層広がりました。貧困や飢えで苦しむ人々の数は、ほとんど減少していません。

私たちの身の回りでは、子どもを虐待する大人や親が目立つようになりました。私たちが日々暮らし働く環境が、私たちの日常生活に大きなストレスを与えています。こうした状況では、人と自然との関係も貧しいものになっています。

人間社会学部は、こうした「平和でない」状態にあふれた社会のなかで「平和を創る」人を育てることを目指しています。このために、二つの新しいステップを踏みしました。

その一つが学部の専門科目である「体験学習」

を、今回得ることが出来た文部科学省の「特色GP」補助金を活用して一層充実することです。具体的には、社会福祉施設やNPO団体でボランティア活動に参加するコミュニティサービスラーニング(CSL)と、タイなど世界各地を訪れて諸問題を実地に体験・観察する、あるいはNGO活動に参加するフィールドスタディ(FS)を、それぞれの質と量、さらにそれぞれの事前と事後において拡充します。

もう一つのステップは、大学院人間社会学研究科を新設し、日本で初の平和学を専攻する修士課程を設けたことです。ここでは学部教育を延長して、「平和を創る専門家」の養成を目指します。このための文部科学省への届出は完了しており、来年4月から始まるばかりになっています。この大学院の具体的な内容については、是非ホームページをご覧ください。恵泉女学園大学ならではの、実践的な内容だと自負しています。学部生だけでなく、卒業生や社会人の方々の入学も期待しています。

一緒に、平和を創っていきましょう!



人間社会学部学部長

大橋正明

<<< News

人文学部

日本語の教え方いろいろ

～さまざまな教授法を体験してみませんか？～

本学人文学部日本語日文化学科では、学生にとって一般受講者と共に受講することも良い刺激となるため、平和文化研究所の共催を得て、9月30日（土）に近隣の日本語を教えている方などを対象とした標記の特別講座を主催しました（無料）。

講師にはドイツ州立言語研究所やポニクムの白石文子先生をお招きし、さまざまな教授法のデモンストレーションを行いました。理論

だけが先行しがちな日本語の教育方法において、最新の教授法のデモンストレーションに接することは極めて意義深いものでした。なお、今年度秋学期には、韓国新羅大学校からの4名とともに、ドイツのボン大学アジア言語研究所からアフリカ・カメルーン出身の短期留学生を迎え、より国際色豊かなキャンパスとなっています。



<<< News

人間社会学部

快挙！ 人間社会学部の取り組みが、特色GPとして選定されました

8/4（金）、文部科学省に申請中であった本学人間社会学部のフィールドスタディを中心とした取組「専門性をもった教養教育としての体験学習～社会的公正をグローバルに目指す市民の育成～」(事業推進責任者 大橋正明学部長)が、書類審査、ヒアリング審査を経て2006年度の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」として選定されました。

特色GPとは、2003年度からスタートした文部科学省による教育改革支援事業。大学教育の改善に資する特色ある優れた取組を選定・公表することにより、高等教育の活性化を促進させることが狙い。本年度は、全国の大学から331件の申請があり、採択は48件でした。

今回の採択理由について、文部科学省では、「体験学習を中心としたこの取組は、青年海外協力隊や国際NGOなどに加わる者を輩出するなど、目覚ましい成果を挙げており、「異文化理解の上に立つ地球市民の育成」という現代的課題に呼応した点を評価した」と講評しています。

【人間社会学部の体験学習】

短期フィールドスタディ

国内外の特定の地域を訪れ、専門分野の中から定めたテーマで学ぶプログラム。本年度はバングラデシュ・ドイツ・インドネシア・沖縄（八重山）・アメリカ合衆国・オーストラリア・ヨーロッパ・タイ・フランス・ニュージーランドで実施

長期フィールドスタディ

タイのチェンマイ市にある国立チェンマイ大学と提携して実施している半年間のプログラム。チェンマイ大学で事前授業として約2ヶ月間、実践的なタイ語学習やタイ社会について学び、農村や山岳民族の村でフィールドワークを実践。その後3ヶ月は現地のNGOや政府機関で体験学習を行う。

コミュニティサービスラーニング

障がい者・高齢者・子どもなどの福祉関連施設やNPOなどでのボランティア活動が単位として認定される制度。人文学部からの履修も可能。



<<< News

大学院

大学院の改組と国際シンポジウム

本学は文部科学省に大学院の改組を届け出て受理されました。2007年度からは、人文学研究科は、文化共生専攻となり、日本語教育と文化交流の修士課程5名を募集します。また、新たに人間社会学研究科を設置、平和学専攻7名を募集します。この専攻名は日本で初めてのものですが、大学の理念「考える大学」「平和をめざす女性の大学」「地球大学」にまた一步近づいたといえます。

なお、本学大学院では例年国際シンポジウムを開催していますが、今年度はアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)の後援を受けて以下の要領で開催します。

このシンポジウムでは、アジア各地で困難な状況に日々立ち向かっ

ているNGOリーダー、ジャーナリスト、神父、学者などをお招きし、それぞれの経験を伺った上で、多文化共生と平和を創出するために私たちがなすることについて、熱く語り合います。

(入場無料・同時通訳あり)

日時：11月4日（土）13：30～16：30

場所：本学J202教室

テーマ：「アジアにおける多文化共生と平和のための市民社会の役割」

シンポジスト：モヒッディン・アフマッド（バングラデシュ）、アルバート・アレホ（フィリピン）、クンダ・ディクシット（ネパール）、マリア・ハルティニンシ（インドネシア）イ・シジェ（韓国）、澤井啓一（本学大学院人文学研究科長就任予定者：文化交流論）

司会：大橋正明（本学大学院人間社会学研究科長就任予定者：市民社会活動論）



<卒業生紹介>

那覇市議会議員

平良識子さん(2005.3 大学院修了)

沖縄国際大学を卒業して、本学の上村英明助教授のもとで大学院を修了した平良識子(さとこ)さんが、2005年7月に行われた那覇市議会議員選挙で最年少記録を塗り替えてトップ当選されました。ここにプロフィールを紹介します。

自己紹介文

私は、復帰後の沖縄に生まれました。豊かな自然と文化に囲まれ、平和の心を育んできました。

私は、沖縄が大好きです。沖縄の今、そして未来のために「平和学」を学び、「国際人権論」を研究し、国連に人権の面から沖縄問題を訴える市民運動に参加しています。私は、いま政治の舞台上に上がりました。願ひは、那覇の自立発展です。そのためにも、県都・那覇のまちづくりが大切です。すべての人が活き活きと生活でき、平和と文化を発信していける国際都市・那覇を目指して走ります。

*好きな言葉：意思あるところに道あり(Where there's a will, there's a way)

*尊敬する政治家：オスカル・アリアス・サンチェス(元コスタリカ大統領)、メアリー・ロ

ビンソン(元アイルランド大統領、元国連人権高等弁務官)

*趣味：食べ歩き・海をながめる・本を読む



アーチェリー

国際社会文化学科3年
伊藤浩子

私は、高校からアーチェリーを始め、今年で6年目になります。大学でも、周りのたくさんの方の協力により、アーチェリーを続けることが出来ています。大学1年次には、高校時代から目標にしていた国体に神奈川県の手として参加する

ことができ、団体女子4位・男女総合優勝という成績を収められました。今でも毎年、団体への挑戦は私の目標です。

選手として活動する一方で、大学2年次から全日本学生アーチェリー連盟で試合運営の役員もしています。高校時代からずっと選手としてアーチェリーと関わってきましたが、今は運営する側からもアーチェリーと関わり新しい視点を持てるようになりました。これは、

私のとっているゼミで学んでいる開発論(すでにあるものを利用して、新しいものを作っていく)に共通しているところが多くありとても勉強になっています。



一人暮らしの明暗☆☆

日本語日本文化学科 2年
武子真弓

栃木の田舎から出てきて一年半。一人暮らしにも慣れたもの♪

私の家は多摩センターの駅から徒歩10～15分の所にあります。八畳の1kの普通のアパートです。バス・トイレ別。エアコン付。日あたり良。家賃6万円以下。駅から徒歩20分以内。これが家探しの時の最低条件でした。

駅に近すぎるとうるさそう。大学の近くだと

たまり場になりそう。しかも、交通手段がなさそう。などと考えていました。

1限から授業のある日でも、8:30に家を出ればギリギリ間に合います。うらやましいって?? そうでもないのですよ...

悩みの種は家事全般。普段はお弁当まで作ってしまうくらい料理をしています。掃除・洗濯は好きなのでこまめにやります。だけど、テストやレポートで忙しくなった時が大変です。「おなかすいたな...」「足の踏み場がないな...」「もう着る服がなくなるな...」と思っても誰も助

けてはくれません。

この家事が嫌で電車を乗り継ぎながら片道2時間かけて実家から通う子もたくさんいます。

あなたならどちらの大変さを選びますか?? (公式ホームページに、受験生向けに匿名で掲載しているブログ(日記)から転載)



我が家のベランダから見える風景

<< Report

地域社会との連携

「教育」・「研究」とともに大学の大きな使命のひとつである「社会貢献」に関して、従来の公開講座や学識経験者委員としての行政参加に加えて、今年は特に地元多摩市・稲城市を中心に多彩な連携が見られますので、その一端を紹介します。

「つるまきまちひろば・オープンバザール」への協力

大学から徒歩10分程度の地元商店街「多摩市鶴牧近隣センター」で、10月28日に開催された同バザールへ、人間環境学科澤登ゼミ生を中心に参加。

多摩市永山公民館企画「食育セミナー」への協力

「春・秋の里山体験」散策や調理の講師・補助者として教職員・学生が参加、教育農場で芋掘りと焼き芋などを企画、園芸教室を提供。

「食は何処から来るのか」斉藤百合子体験学習主任を講師派遣、食をとした国際的なつながりと、有機バナナをとしたタイと日本の関係を考える。

稲城市・多摩市との教育提携プログラム

教職課程の学生と英語コミュニケーション学科の一部の学生が、教育ボランティアとして、また研修会や授業の参観者として学びの機会を広げています。

また、昨年に引き続き、稲城市夏期集中教員研修会「楽しく学ぶ英語活動指導者研修会」を、本学において卒業生教員（野間美香さん）のモデル授業で実施しました。稲城市では2007年度から小学校で英語が必修化されるためこの研修は好評で、小・中学校の先生22名が受講し、盛会のうちに終了しました。



ドラマ撮影に協力

多摩市産業振興課より地域活性化のためにと要請があり、日本テレビ水曜ドラマ「14才の母」の撮影に協力中。本学の美しいキャンパスが全国的に放映されることは、日々キャンパスの維持管理に心を尽くしている私たちの誇りでもあります。

緑の里親制度

自治体にかわって、地域住民が「里親」となって、公園や駅前などにある花壇やプランターの維持管理をボランティアで行なう制度のことです。恵泉女学園大学でも、2003年度より多摩市の緑の里親として、多摩センター駅前のプランターや花壇の一部の植栽、管理を行なっています。これは園芸関係のゼミの活動の一つとして行なっているのですが、花の手入れをしていると、多くの方が声をかけてくださったり、花に関する質問をしてくださったりします。人と人との間に、植物があることで会話が生まれる。園芸を学ぶ学生にこのことを体験してもらおうことが、この活動の一番の目的なのです。



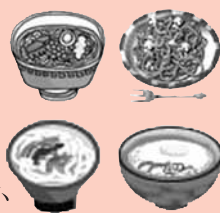
地元高校との連携

- ①都立調布北高校で、人文学部客員教授クリスチアーナ・クイック・クリーブランド先生が「～音楽を通して学ぶアメリカの言語・歴史・文化～」と題した出前授業を実施。
- ②多摩地区では初めての総合学科高校、都立若葉総合高校から「産業社会と人間」の上級学校訪問を受け入れ、連携強化についての協議を準備中。
- ③都立永山高校学校運営連絡協議会に、多摩市内の関係団体として委員（人間社会学部樋口助教授）を派遣。

<< Report

文化学科の魅力

文化学科を分かりやすく紹介するために、麺類を取りあげます。パスタを昔はスパゲッティと言ってましたが、要するに小麦粉をこねて細く切ったものをゆでて食べるのです。うどんも蕎麦もそうめんもラーメンも、それぞれ粉の成分は若干違いますが基本的には同じです。これら全てを麺類と言いますし、麺類として考えるならば世界共通の食べ物です。ヨーロッパではパスタ、中国ではラー



メン、日本ではうどん蕎麦。それぞれの地域や国の違い、文化と風習の違い、もしかすると宗教や民族の違いによって、麺類は微妙に変化しながら進化を遂げたのかもしれませんが。世界に共通して見られる文化現象と異なるものを比較しながら研究するところが、文化学科です。特に世界史に興味のある人にうってつけの学科です。

（受験生向けポータルサイト『恵泉FELLOWS』の教員ブログより転載）



文化学科主任
岩村太郎

行事報告

2006.6-2006.9

学長海外提携大学訪問

国際平和に貢献できる人材作りを 学長 木村利人

秋の季節を迎え、キャンパスの花壇にはピンクや白の千日紅、可愛らしいシロクジャク、紫色のアゲラタムなどの花が美しく咲き誇っています。

夏の間の本学の研修プログラムは、バングラデシュ、インドネシア、タイ、ドイツ、オランダ、イギリス、アメリカ、オーストラリア、沖縄など国の内外で行われました。無事に研修やゼミを終え、参加者の多くの皆さんが更に一段と実力を養い、たくましく大きく成長されたのは大きな喜びです。

私は、8月と9月に、タイのバヤップ大学とチェンマイ大学及び韓国の新羅大学と本学との学生交換協定や研修プログラムの促進のために学長同士のトップ会談を行ってきました。

恵泉女学園からの留学生が熱心に勉学に勤しみ、現地にとけこみ、それぞれの国の大学で、タイ語や韓国語を自由に話して友人たちと交わり、研究しているありさまに接して感動しました。また、タイでは、この二つの大学で日本語教師としての責任を担い、それぞれ大活躍しておられる本学園出身の先生方にもお目にかかれたのは幸いなことでした。

バヤップ大学では、実際に日本語を教えている授業に参加して日本語でタイの学生の皆さんがたに挨拶をする機会も与えられました。

チェンマイ大学には恵泉女学園大学専用の研修ゼミ室も特別に設置されており、学長はじめ大学当局が積極的に私たちの長期フィールドスタディプロジェクトを支援して下さいます。

8月の「学長からのメッセージ」で、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に本学が選定されたということを報告しましたが、本学のスタッフの熱心なサポート体制とあいまって現地の大学のスタッフとの意気投合した協力の現場を直接に訪れ、様々な意見の交換ができたことは大変に有意義でした。言語・文化・開発などの教科に関連する学習をはじめ少数民族との交流などの「体験学習」の蓄積が様々な困難を乗り越えて20年以上にわたり継続して展開されていることは、まさに「特色ある大学教育」そのものです。

恵泉女学園大学は、このような「専門性を持った教養教育としての体験学習」を今後も益々、発展させ日本と世界の国際理解・平和に貢献するユニークな大学教育を推進していく使命を担っているのです。



短期フィールドスタディ(ドイツ・オランダ)
ベルリン ブランデンブルク門にて

公式ホームページ「学長からのメッセージ(9月の学長便り)」より転載
<http://www.keisen.jp/univ/>

●2006年度 夏の海外プログラム一覧

プログラム名	期 間	開催地	参加学生数
バングラデシュFS	7/22～8/1	バングラデシュ	12
ドイツFS	8/14～8/26	ボーム	10
インドネシアFS	8/29～9/9	バリ他	17
アメリカ合衆国FS	9/1～9/9	ニューヨーク	9
オーストラリアFS	8/29～9/10	ケアンズ	5
ヨーロッパFS	8/30～9/8	オランダ、ドイツ	12
英国研修	7/30～8/21	イギリス/コッツウォルズ	17
沖縄FS	9/6～9/17	八重山諸島	13
タイ長期FS	8/25～07.1/31	タイ(チェンマイ)	9

オープンキャンパス



教育農場ツアー

どのような内容なのかも知らずに、軽い気持ちで学生実行委員を引き受けました。仕事をしていくうちに、私たちが恵泉女学園大学の学生の代表として見ら

れていることに

気づき、「私がこの仕事をしたいのだろうか?」と思わず自分自身に問いかけてしまいました。そんなある日、声をかけた保護者の方に、「この学生さんは楽しそうですね。私の娘にも皆さんのようになってほしいです。」と言われました。今では、一人でも多くの受験生と保護者を案内したい気持ちです。



文化学科2年 間瀬裕美

インターンシップの推進

授業で学んだ知識を生かし、実際の就業体験を積むことで適職選択能力、価値判断能力を養うために、今夏は以下の企業等でインターンシップを実施しました。実社会で働くために必要な実務能力やマナーを身につけるために有効でした。

○東京都庁○群馬県庁○多摩ニュータウン環境組合○スカイビルサービス○日本航空インターナショナル○ホテル日航東京○ホテルラフォーレ山中湖○自然教育センター○港南つくしんぼ保育園○キャリアブレイン

●2006年度4年生内定状況(2006年10月10日現在)

	日本文化	英米文化	国際社会	人間環境	合計
在籍者	101	138	143	86	468
登録者	75	108	110	70	363
その他	26	30	33	16	105
内定者	28	68	64	51	211
内定率	37.3%	63.0%	58.2%	72.9%	58.1%

多目的アワー

「多目的アワー(木曜日 12:45～13:35)」は学生生活をより充実したものとするための、恵泉ならではのユニークなプログラムです。教員と学生グループが中心になり企画、運営をしています。

2006年度 秋学期 多目的アワー一覧

10月5日 ● 大学コミュニティミーティング 木村学長と話そう

10月12日 ● カルト予防講座

10月19日 ● ランチタイムオルガンコンサート

10月26日 ● 詩の朗読と弾き語り

11月9日 ● 講演会「となりのアフリカ」

11月16日 ● スピーチコンテスト

12月7日 ● 落語の会

12月14日 ● マナー講座

1月11日 ● 長期FS一時帰国報告会

1月18日 ● 海外渡航時の危機管理

恵泉トピックス

お買い得度No.1女子大(『PRESIDENT』10.16号より)

大学の格付けやランキングがメディアに公表されるようになりましたが、プレジデント社調査の全国・女子大学損得判定では津田塾大学に次いで2位にランクされました。この調査は、就職者の業界別の給与水準を平均したものです。本学の就職が給与水準の高い業界へ強いことが証明されました。

なお、給与水準に入学難易度を加味した「お買い得度」では、全国の女子大学で1位になりました。

ノーベル平和賞

女性を通じた貧困対策としてのマイクロファイナンスを生み出した、バングラデシュグラミン銀行のムハマド・ユヌス総裁が今年度のノーベル平和賞に決定しました。

本学は2004年6月、シャプラニール＝市民による海外協力の会などとユヌス総裁による「30 years of Micro Finance」と題した講演会を催し、国際開発や貧困問題に関心を持つ学生や市民の方々の理解と関心を深めることができました。また、世界で最初の国際平和団体として著名なIFOR（国際友和会）の代表16名の方々が、10月12日（木）来訪されました。この平和グループの会長やメンバーの中から、マルティン・ルーサー・キング博士など6人のノーベル平和賞受賞者が出ています。



力強く講演するユヌス総裁



IFOR（国際友和会）の皆さんと

多摩フェスティバル

今年のテーマは「Diamond～輝きは無限大～」です。磨けば磨くほど輝くことが出来るダイヤモンドのように、強く輝く女性を目指そうという思いが込められています。



外国人留学生在が日本語スピーチコンテスト入選

5月27日（土）、第47回外国人による日本語弁論大会全国大会（主催 財団法人国際教育振興会・国際交流基金・下関市）に、本学人文学部英語コミュニケーション学科2年の金美善（キンビゼン Ms.JIN Meishan 出身：中国）さんが出場しました。

大会には、28カ国・地域、120名の応募がありましたが、金さんは『本当に日本が好き?』の演題で出場し、予選審査の結果、9カ国12名の1人に選ばれました。

なお、この弁論大会の様子は、NHK教育テレビで放送されました。

■ 編集後記

今回は、初めて活躍する卒業生の情報を掲載しました。大学の使命としての「社会貢献」については、これからも紹介したいと思っています。大学の公式ホームページには、学長からのメッセージや今月の花を毎月、教員や学生のブログ（日記）を毎週更新しています。ぜひご覧ください。



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

ホームページ <http://www.keisen.jp/univ/>

mobile <http://m.keisen.jp>



コスモスとツマグロヒョウモン

多摩キャンパス周辺には今でも雑木林や畑地などが残されており、そこに生息しているチョウたちが花壇の花にも蜜を求めてやってくる。特に野外で花の少なくなるこの時期、キャンパスに咲くコスモスの花はチョウにとって貴重な蜜源となっている。
(人間社会学部助教授 樋口幸男)